

日本橋常盤小学校を対象としたまちづくり学習の授業効果の定着性に関する分析

H07012 市川 健太

指導教員 岩倉 成志

表 1 授業概要

対象学校	東京都中央区立常盤小学校
対象学年	小学5年生 (1学級: 25名)
授業期間	2004年9月～2005年3月 6ヶ月間
授業回数	50コマ (1コマ45分)
実施主体	日本橋学生工房 [※]

※日本橋学生工房は、「日本橋地区再開発」を学生の視点から考え、地元の方々と交流し、実際に活動することを通して今後の日本橋のあり方を提案する団体。2003年～08年まで芝浦工業大学土木工学科交通計画研究室も参加

表 2 授業内容

STEP	授業内容	コマ数
①	日本橋を知る(地域のことを正しく理解) インターネットや図書など様々な情報を収集・整理	4
②	日本橋をみる(現場視察) ステップ①で情報を整理した上で、実際に地域を見学	4
③	日本橋の未来を考える(発想を整理し提案作成) KJ法から問題を整理し、提案を作成	16
④	日本橋の未来をつくる(模型作成) ステップ3で提案を模型としてカタチに創出	19
⑤	提案を発表する(プレゼンテーション) 自分たちの提案をまちの方にわかりやすく伝える	7
計		50

1. はじめに

地域再生や地域活性化を積極的に実施していくためには、意欲ある住民の参加が必要不可欠である。住民にまちへの興味、関心を持ってもらう1つの手段として、小学校の総合的な学習や社会科の時間を使ったまちづくり学習が実施されている。幼少期からまちへの愛着を育むことによって、将来のまちを担う大人へと成長すること、子どもの周囲の大人への波及効果が期待できる。

まちづくり学習の効果は、学習直後の調査では効果があると報告されている。しかし、子どもがまちに貢献できる年代に成長した時、学習の効果が定着しているか否か、検証はされていない。

そこで本研究では、2004年度に東京都中央区立常盤小学校5年生の総合的な学習として実施された、「まちづくり授業」(以降、授業とする)を受講した児童とその保護者に追跡調査を実施する。授業当時、小学5年生であった児童は5年が経過し、高校2年生に成長している。調査により、授業の教育効果や波及効果が、どう定着しているかを明らかにし、授業の内容と実施方法を見直すことで今後の授業の方向性を検討する。

2. 2004年度に実施したまちづくり授業

授業は日本橋のまちと親しみ、日本橋の未来とまちづくりのあり方を考え、生徒個人の探究心や問題解決能力、表現力等を育む目的で実施された。

表1に授業の概要を示す。特徴として、小学5年生の児童ほとんどが中央区外から越境していたこと、2,3学期で50コマ実施したこと、実施主体が学生のまちづくり団体であったことが挙げられる。具体的な授業内容は表2示すように、5つのステップを設けて授業を設計した。また、全授業の終了直後に児童と保護者に感想とまちへの意識変化について、アンケート調査を実施している。

3. 追跡調査の概要

本研究では、追跡調査として郵送によるアンケート調査と、その結果をもとに、より深く聞きこむインタビュー調査の2段階で構成する。

まず、アンケート調査で生徒とその保護者それぞれに対して、①「授業内容の記憶」、②「授業の運営方法の評価」、③「授業がきっかけとなった行動変化や意識変化」を聞いた。アンケート票は生徒と保護者に24部配布し、電話で催促をした結果、生徒は19部回収、保護者も同様の回収状況であった。次にインタビュー調査で、協力の意向を得た10名の生徒に、1名ずつを基本にインタビュー調査を実施した。

4. まちづくり授業実施から5年後の授業効果

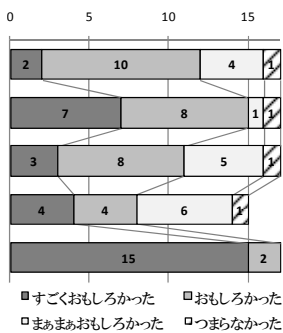
本章では、授業直後のアンケート調査と今年度のアンケート調査、インタビュー調査から、まちづくりに関する授業効果の定着性についてまとめる。

4.1 生徒への授業効果の定着性

(1) 授業直後の印象と現在の記憶の比較

図1で授業直後と現在を比較すると、授業直後に興味をもっていた授業内容ほど、現在の記憶として定着していることがわかる。インタビュー調査でも

2004年度 まちづくり授業の印象



2010年度 まちづくり授業の記憶

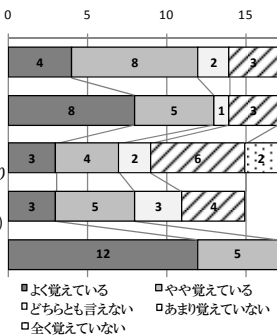


図1 まちづくり授業の印象と記憶 【n=17】

表3 アンケート結果まちへの関心 【n=24】

2004年度 アンケート調査結果	すごく いきたい		してい きたい		やや してい きたい			してい たくない		欠席	
	Yes	No	Yes	No	Yes	No	未回収	Yes	No	Yes	No
これからも日本橋を よくしていきたい	3		14		5			0		2	
2010年度 アンケート調査結果	Yes	No	Yes	No	未回収	Yes	No	未回収		Yes	No
まちに興味をもつようになった	3	0	10	2	2	0	2	3	-	1	1
まちづくりに関心をもつようになった	3	0	6	6	2	1	1	3	-	2	0
日本橋学生工房のような組織で活動したくなった	1	2	5	7	2	1	1	3	-	1	1
卒業後も日本橋へ訪れるようになった	3	0	6	6	2	0	2	3	-	0	2
地域行事に参加するようになった	1	2	4	8	2	0	2	3	-	0	2
まちづくりに参加するようになった	0	3	1	11	2	0	2	3	-	0	2

「楽しかったから覚えている。」といった発言が目立ち、実習的要素が大きい授業内容がより記憶の定着に効果的であったと考えられる。なかには、小学校の授業は「模型づくりしか覚えていない。」と述べる生徒もいた。インタビュー調査に参加した生徒のほとんどが、授業のことを覚えており、具体例を交えて話を伺うことができた。

(2)まちづくりへの参加意向と地域への愛着

表3に示すように、授業直後は欠席者を除き全員が日本橋に関心を示した。今年度のアンケート調査では13名が「まちに興味を持つようになった。」と回答し、10名が「まちづくりに関心を持つようになった。」と回答した。インタビュー調査でもまちづくりの場があれば参加してもいいと答える生徒が10名中6名おり、「学生工房でまちづくりをしたい。」とまちづくりに強い意志を示す生徒も1名いた。これらの結果から、5年の経過により授業効果は薄れているが、多くの生徒に授業効果の定着がみられる。

一方、授業直後のアンケート調査で生徒全員が居住している地域のまちづくりに参加したいと回答し、波及的に効果がみられたが、インタビュー調査を受けた生徒10名中8名は「自分の住んでいるまちに愛着はない」と語り、効果は定着していなかった。生

徒の多くは本授業以前から日本橋の行事に参加しており、「行事等でまちの方々からお世話になっていたため、授業のモチベーションが上がった。」と述べる生徒もいた。このことから、地域行事への参加やまちの方々との接触が、地域への愛着に影響を及ぼしていることも考えられる。

4.2 保護者への波及効果

授業直後のアンケート調査から、日本橋のまちづくりへの参加意識が「高まった」、「やや高まった」と20名の保護者が回答していた。20名のうち、今年度のアンケート調査で16名回収でき、10名が「まちづくり授業がきっかけでまちづくりに参加した」と回答した。このことから、日本橋学生工房が授業を実施する目的の1つであった、保護者への波及効果があったことが明らかになった。

5. まちづくり授業の評価

授業は学生中心で進められ、授業の途中で大学教授による講義や、まちの方々には話を聞く機会もあった。インタビュー調査では「外部の方と話すのは新鮮で楽しかった。」と述べる生徒が多く、授業への関心を高める要因となっていたことがわかる。

小学5年生という授業の実施時期は、保護者アンケートで19名中14名が「ちょうどよかった」と回答、6ヶ月間という授業期間も生徒アンケート調査で19名中11名が「ちょうどよかった」と回答した。

また、インタビュー調査を受けた10名全員が「今後も常盤小学校でまちづくり授業を実施した方がよい。」と述べ、生徒自身が授業の重要性を感じていた。なかでも「長い期間をかけて、1つのものを最初から最後までをつくりあげる経験は少ない。」と述べるように、単発ではなく、継続的に授業を実施することが、まちへの関心意外にも、生徒の様々な能力を高めるきっかけになると考えられる。

6. おわりに

本研究では5年後という中期的な間隔でまちづくり授業の効果を明らかにした。今後、生徒が大人に成長し、まちに関わる場が増えた時、実際にまちづくりに参加するか否か、長期的な調査が必要である。

【謝辞】調査にご協力いただいた常盤小学校の卒業生と保護者の皆様、ならびに学校関係者の皆様、元日本橋学生工房の皆様、ご指導いただいた野中康弘先生、授業の設計者である鈴木葉子氏に、心より感謝申し上げます。